

2019年度 第1回レフェリーアカデミーを終えて

氏名 (ペア)	島村 奈央美	所属	福岡県
---------	--------	----	-----

期 日	2019年4月27日(金)～29日(日)
会 場	広島経済大学体育館
大会名	中四国学生春季ハンドボールリーグ
研修内容	中四国学生春季ハンドボールリーグ戦試合を担当する。
第1回 テーマ	レフェリーとしての立ち振る舞い(正しいジェスチャー)を身につける。 (1)周囲からの見やすさ、わかりやすさを重視したジェスチャーを意識する。 (2)個人又はペアの具体的なテーマ。
担当した 試 合	28日 ①環太平洋大学-愛媛大学(八重・島村) 29日 ①環太平洋大学-広島大学(若森・島村) ②岡山大学-鳴門教育大学(荒木・島村)

課 題 ・ 反 省

今回事前課題で個人の課題について、昨年度からの課題であった、走るフォームを整えることとジェスチャーをするときに指先まで意識をすることの2つを設定しました。走るフォームについては、とくに速い展開のときに腕を横に振ってしまうので、腰の位置で縦に振ることを徹底した。これについては、定着することができたと思うが、新たに立ち姿について課題ができた。ジェスチャーについては、指先まで意識して行い、指先が開くことは減ってきている。しかし、ジェスチャーを無駄に大きくしてしまうことがあり、間違った形になっていることがあった。映像を見たときもごちなく違和感のあるジェスチャーになってしまっていたので、誰がみてもわかりやすく美しいジェスチャーができるようにする。今回設定した2つの個人課題は当たり前でできなければならないことだと思うので、日頃から徹底して取り組み、当たり前でできるようにする。

ジェスチャーについていくつか課題があがった。

◇ターンオーバーのときに方向指示→ジェスチャー→方向指示になっているが、最後の方向指示はする必要がない。同様に2分間退場を2回示してしまうことがあるので、1回示すだけでよい。

◇フリースローを判定したときに、ジェスチャーをする必要はなく、方向指示及びポイントを示すことを行う。ジェスチャーをすることにより、自分を納得させようとしているだけだったり、逃げている印象だったりレフェリーとしての弱さであり、見せてはいけない立ち振る舞いである。

◇ゴールインや罰則適用時、真上に手をあげるときに、一度肘を曲げて上に伸ばしているの、腰から真っすぐあげていく。

◇方向指示の腕の高さが顔の隠れる位置になっている。大きく見せる意識は大事であるが、美しくないジェスチャーになってはいけない。ただ、大きくジェスチャーをするのではなく、ゆっくりはっきりと行うことを意識する。

今回3試合女子の試合を担当させていただいたが、女子のゲームはとにかく丁寧に、ステップにおいては見落とすことなく判定していかなければならず、前半の10分、15分でしっかりと見ていく必要がある。また、接触が正面であるか、正しく守れているかなど、影響があるかどうかの見極めが重要である。

インカムを使用しているのに、十分に活用できていないので、ペアでもっと活用して、十分にコミュニケーションをとる。例えば、パッシブの予告の回数を数えたり、残り時間をカウントしたり、罰則適用時に選手の背番号の確認をしたりなど様々な場面で活用し、誰とペアを組んでも同じようにできるようにする。

レフェリーとしての立ち振る舞いにおいて、A級として責任のある所作が足りていない。立ち姿、移動など自信のない様子が表れている。とくに、GRのときが顕著に出ているので、自分の立ち姿を繰り返し見直して、他のレフェリーの動作を見て学んでいきたい。判定においても、A級だからこそその判定、ゲーム管理をしなければならない。8の4を使ったプレーがあるのであれば、機械的に判定し、両チームに一貫性のある判定をしていかなければならない。なぜフリースローなのか、なぜ警告なのか、選手や観客、全ての人にわかるよう根拠のある判定をしていくことが求められ、とったりとらなかつたりなど論外で、ステップにおいても同様である。そのためには、DFの位置をしっかりと見ること、レフェリーとしての目の使い方が重要である。観客がボールを追っていくことが多いと思うが、レフェリーは判定するとき、DFが最初どこにいるのかが見えていなければならない。セット中、スローオフのあとやプレーが止まったときに全体を見る余裕をつくり、サイドプレーヤーがコート外に出ていないか、ポストとDFの位置関係はどうかなどを確認する。また、判定以外においても選手のためにできることはすべて行う。今回3コートが並んでおり、笛の音色が似ているコートが隣り合わせになっていた。ゲームの途中でも変えることが望ましく、笛だけでなくウェアも類似であれば着替えることも考えなければならない。試合前の確認や得点の確認など自分のルーティンを実践に行うことも大切である。

本年度の審判員の目標、そして、レフェリーアカデミーの目標でもある審判員の心得10か条（①リーダーシップ②誠実さ③ルールに関する知識④冷静さ⑤正しい判断⑥身体上の適正⑦ユーモアのセンス⑧勇気⑨協調性⑩仲間意識）をひとつひとつ考えていくことが求められていく。全てが選手のため、ハンドボールを見ている人、応援してくれている人、支えてくれている人たちのためであり、レフェリーとして身につけていかなければならないことであり、人としても大切なことであると思う。自分らしい10か条を探すためにも、自分には足りない部分が多いので、日頃からの取り組みでひとつひとつの項目を意識していきたい。とくに誠実さや冷静さなど精神的な部分を高めて、素直にまわりの意見を聞いたり、粘り強く研鑽したりとレフェリーに対する姿勢を改めていきたい。

昨年度、前半しか実技ができておらず、復帰後練習ゲームを吹かせてもらったり、動画を見たりということしかできておらず、とにかく準備不足を痛感した。他のアカデミー生よりも努力が必要であり、ハンドボールやレフェリングに費やす時間も見直さなければならない。地元でしっかりと研鑽を重ね、アカデミーの場でその成果を発揮し、また次に繋げていくことが大切である。このような貴重な経験をさせていただけることに感謝し、責任をもって取り組み、地元に貢献していきたいと思えます。